令和２年１１月１日現在の世帯数と人口

（千種区　18.18K㎡）

学区名	世帯数	人口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1　千　種	5,487	8,753	4,450	4,303	△ 13	△ 26
2　千　石	4,066	6,823	3,439	3,384	3	14
3　内　山	5,815	7,975	4,222	3,753	1	0
4　大　和	3,457	6,717	3,313	3,404	△ 1	0
5　上　野	7,405	15,512	7,700	7,812	△ 8	△ 5
6　高　見	7,406	13,415	6,399	7,016	△ 5	△ 8
7　春　岡	7,044	11,104	5,813	5,291	△ 3	△ 13
8　田　代	11,552	21,918	10,585	11,333	△ 8	4
9　東　山	10,467	19,482	9,614	9,868	△ 1	△ 30
10　見　付	4,324	8,079	4,083	3,996	2	17
11　星ケ丘	3,564	6,940	3,145	3,795	9	△ 4
12　自由ケ丘	3,535	7,143	3,250	3,893	△ 4	△ 6
13　富士見台	6,515	15,334	7,111	8,223	15	34
14　宮　根	3,901	8,218	3,907	4,311	14	26
15　千代田橋	3,723	8,427	3,965	4,462	△ 1	△ 16
千種区計	88,261	165,840	80,996	84,844	0	△ 13
R1.11.1	87,838	166,005	81,136	84,869	116	142
対前年比	423	△ 165	△ 140	△ 25	△ 116	△ 155
名古屋市	1,128,571	2,327,689	1,148,811	1,178,878	394	△ 449
愛知県（R1.10.1）	3,268,776	7,541,123	3,771,870	3,769,253	△ 1,075	△ 4,145

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出　生	死　亡	自然増減	転　入	転　出	社会増減
	85	107	△ 22	890	881	9

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口
昭和５５年	166,837	平成１２年	148,537	173,598（昭和５０年２月１日）
昭和６０年	163,762	平成１７年	153,118	
平成　２年	156,478	平成２２年	160,015	これまでの最少人口
平成　７年	148,847	平成２７年	164,696	146,727（平成１１年４月１日）

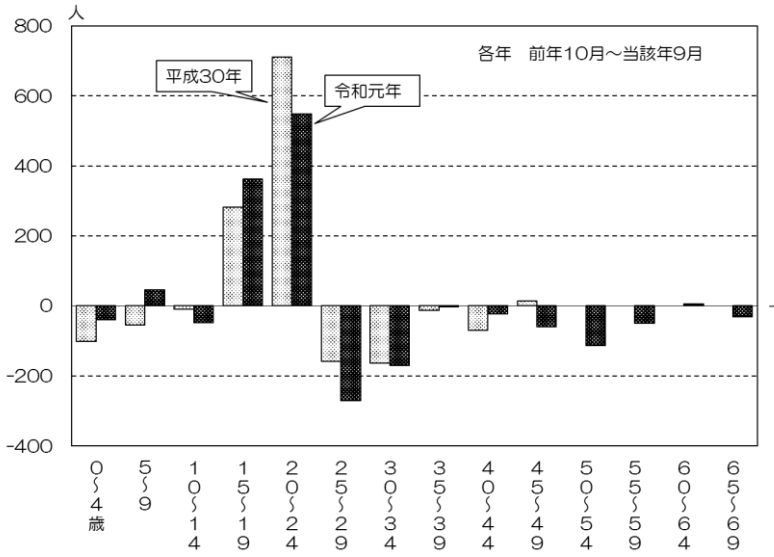
注）　世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

統計なごやweb版　　http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0.html

千種区の５歳階級別社会増減数の推移

令和２年１１月１日現在の千種区の世帯数は88,261世帯となっており、人口は13人減の165,840人となっています。今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢５歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

図 1:年齢５歳階級別社会増減数（平成３０年と令和元年の比較）

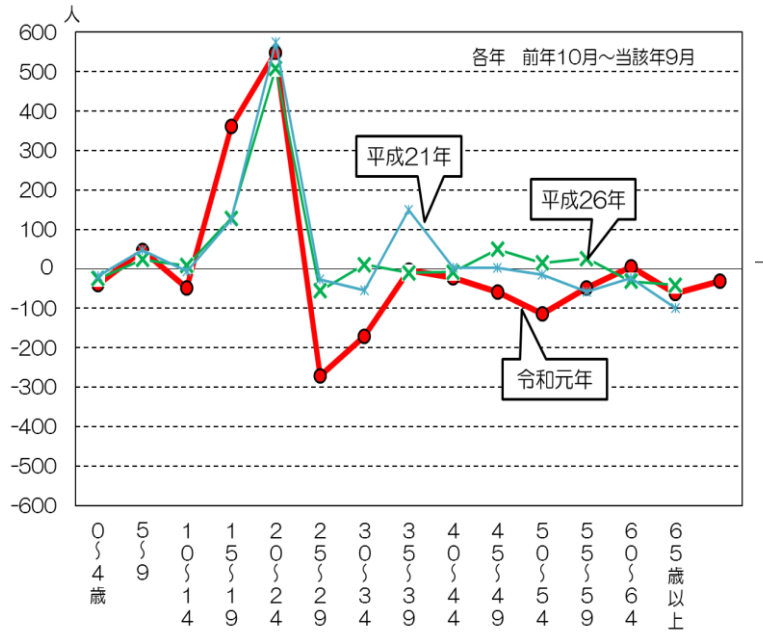


平成３０年と令和元年の年齢５歳階級別社会増減数（図 1）を見てみると、いずれも 15 歳～19 歳、20 歳～24 歳で大幅な社会増（本区への転入超過）がみられます。

千種区は大学が多く、在学中の年齢である 15～19 歳、20～24 歳の範囲で本区への転入が多くなっています。

25～29 歳、30～34 歳では就職のために区外へ転出してしまい、社会減の傾向にあります。

図 2: 年齢５歳階級別社会増減数の推移



平成 21 年から令和元年までの５年ごとの年齢５歳階級別社会増減数の推移（図 2）をみてみると、15～24 歳に本区に転入し、25～29 歳で転出するという傾向に大きな変化はみられません。20～24 歳の社会増減数は、平成 21 年から令和元年にかけて 10 年間、各年 500 人以上の社会増傾向にあります。一方で、25～29 歳の社会減傾向は令和元年に大きくなっています。

また、その他の年代について、10年間を比較すると、社会増減数は30代以降についておおむね減少傾向にあります。